

# 成人期の自立を実現するために 必要な支援やネットワークの あり方について

仙台市発達障害者支援地域協議会作業部会(中間報告)

1

## 1. 委員の構成

	氏名	所属・立場(役職)
1	部会長 植木田 潤★	宮城教育大学教職大学院 教授
2	副部会長 佐々木健太郎	尚絅学院大学 総合人間科学系 教育部門 准教授
3	猪股 絵理子★	保護者
4	上西 創★	仙台城南高等学校 スクールカウンセラー
5	畔柳 清美	仙台市障害者就労支援センター 支援員
6	齋藤 淳子★	株式会社グッジョブ 代表取締役
7	斎藤 純子★	仙台市榴岡児童館 館長
8	西田 有吾	仙台市自閉症児者相談センター 主任相談員
9	増山 裕子	宮城県立貞山高等学校 教諭

※★は協議会員兼務

<令和4年度までの作業部会委員>

伊藤雄高 特定NPO法人アスイクふれあい広場サテライト ユニットリーダー・コーディネーター  
齋藤涼平 仙台市障害者就労支援センター 主任支援員

2

## 2. 作業部会の目的と取組みの経過

目的：知的障害がなく、発達障害の特徴も明確ではないケースも含め、青年期から成人期に生じる課題を明らかにし、全てのライフステージにおいて一貫した支援の在り方を検討する。

論点：「くらす」、「はたらく」、「たのしむ」の3つの観点より、特に「たのしむ」を取り上げ、必要な支援の視点を検討した。

取組み：作業部会による協議・支援施設の見学(令和3年～)  
先進地視察「みつけばハウス（東京都世田谷区）」  
「ら・るーと（東京都品川区）」（令和4年12月）  
療育セミナーでの成果報告・研修会の実施(令和5年3月)

3

## 3. 作業部会での協議により得られた支援の視点

「たのしい」活動は、どのライフステージにおいても共通する“縦軸”となりうる。



- 本人への支援
  - ①「たのしい」活動の提供
  - ②居場所(心理的拠点)の保障
  - ③ピアとしての仲間関係の構築
  - ④成長・発達につながる体験の機会
- 支援者の在り方
  - ⑤多様な支援者・場につながる「ハブ」となる役割
  - ⑥支援機関(社会資源)同士がつながる仕組み

4

